

伊耶那岐（イザナギ）・伊耶那美（イザナミ）

（1）海洋的性格を持つ

「伊耶イザ」は、「さあ」という、他人に対して誘いかけるときや自分が何かを始めようとするときにいう言葉といわれており、この2神の名の「伊耶イザ」は、国生みを始めようとする時の感動詞だとされています。

「那岐ナギ」は「凧なぎ」、「那美ナミ」は「波なみ」です。海に風があれば波が立ち、風がなければ凧になります。男神が静かな凧であり、女神が動的な波となっています。国生みにあつては、女神の伊耶那美の方が主導的な立場であったのではといわれています。

国生みをしたのは、凧と波であり、その本体は風です。海の向こうから船でやって来た人々にとって大切な自然現象は風でした。凧は歓迎すべきものであり、波は静まるように祈るべきものでした。かかる海洋的性格を持つ伊耶那岐・伊耶那美の2神が、のちに日本とよばれるようになる国を生むにあたっては、まず、大八洲国おおよしまくに（多くの島からなる国、または、8つの洲を元とする国の意で、日本の異称）の名の起こりとなった8つの洲しま（海洋的性格を持つ人々にとって最も大切な島・半島など海上交通の要衝）を生み、次いで海を生んだのです。川・山を生んだのはそのあとでした（国生み神話がつくられたとき平野はまだ海水で覆われていたので、平野を生んだという表現はありません）。

（2）Q. なぜ、海洋的性格を持つのか。

A. 弥生時代に海の向こうから渡来した人々の海洋的性格と彼らの次のような国治めの性格を反映しているのではないかと。

「……………我々の祖先は、知恵を出して海と祈り合いを付けながら生きてきた。……………風と潮を見る術が必要。……………航路を支配する者が支配者であり王である。……………平定したと言っているが、それは東北のアイヌから九州まで百余りの都市国家を軍事力で抑えたのではなく、交易を支配したことを意味する。すなわち、「航権」を得たことを指すのであって、国を治めた訳ではない。「政権」という概念は存在しない。」

（長野正孝「古代史の謎は『海路』で解ける」〈<http://pdffile.cocolog-nifty.com/blog/files/31.pdf>〉より）

〈この文書は、「**生駒の神話**」（下記 URL をクリック）に掲載されているものです。〉

<http://ikomashinwa.cocolog-nifty.com/ikomanoshinwa/>